

歴史的街区における路地空間の構成に関する研究

- 京都市中京区における街路表象の特性 -

日大生産工(院) 伊良 雅樹
日大生産工 宮崎 隆昌

1. はじめに

1-1. 研究背景と目的

高度経済成長期以降の社会変化は、我が国における居住環境・ライフスタイルを大きく変化させた。住環境は、プライバシーのみが重視され、地域内の交流や接触が希薄なものとなり、近隣住民による相互扶助の関係が形成し難いものとなった。また、インターネットや携帯電話などの情報通信技術の普及も相まって、今後ますます人々の在り様は「個」に細分化されてゆく傾向にあると考えられる。このような現状をふまえ近年、地域や近隣社会との多様なつながりを考慮した地域社会の形成が求められている。

地域社会を構成する重要な要素として路地空間が考えられる。路地は、モータリゼーションの進行にともない、街路がその意味・機能を変化させた一方で、現在もその地域に暮らす人々にとって最も身近な交流・滞留の場として機能している。また、路地には空間の領域化・交流のきっかけや促進を促す街路表象が置かれ、地域コミュニティを生成している。そこで本研究では、路地に置かれた街路表象の投的序列体系やその階層構造を通じて、地域コミュニティの潜在的つながりを明らかにし、地域環境における相互主体的なつながりを分析・検討することを目的とする。

1-2. 既往研究と本研究の位置づけ

路地を中心とした地域コミュニティに関する研究として、青木ら¹⁾の研究があり、東京都中央区月島地区を対象に、路地空間をあふれ出しの現象や領域論により、領域化しにくい開放的空間であっても、居住者によって領域化するために私的利用がなされるという可能性を示唆している。また、高橋ら²⁾の研究では、「住宅群」における路地の役割について検証を行っている。これらの既往研究では、あふれ出しによる路地の地域環境や生活行為・領域などの視点から、その実態が把握されている。しかし、そもそも街路表象とは、それ自体が独立して存在している

のではなく、居住者によってさまざまな機能・表現・意味が生成され存在している。本研究は、街路表象の機能やその形態を通じて、路地空間の構造を明らかにすることを意図している。

2. 研究概要

2-1. 対象地域

従来から、京都では地域生活と深い関係性を持つ歩行路としての街路空間が形成され、1000年以上も街路を中心とした生活が営まれてきた。また、京都には街路から枝分かれした路地が数多く見られ、都市生活の安全性や快適性を与えることのできる数少ない空間装置のひとつとして機能している。本論文では京都市中京区の堀川通～河原町通・二条通～四条通で囲まれた範囲を研究対象地とし(Fig.1)、研究対象地内に多数存在する路地を対象とする。

2-2. 調査方法

研究対象地内の路地の形状・街路表象、路地に対する住居の屋根伏せ・エントランスについてフィールドサーベイを行った。また本研究では、街路から裏屋および裏敷地へアプローチするための通路を「路地」とし、路地上に点在するものを総称して「街路表象」と定義する。

2-3. 研究方法

路地空間における集団間のつながりを明らかにするため、研究を以下のように進めた。

路地の形状と特性 路地の形状は、その形成過程によりさまざまであり、路地空間を分析する主要な指標といえる。ここでは、路地を物理的形状のみで以下のように分類する (Tab.1)。

Tab.1 路地の分類

	構造	形状
A type	袋小路	I型
B type	袋小路	T型・L型
C type	抜小路	I型・T型・L型・コ型



Fig.1 研究対象地および路地の分類

路地と街路表象の関係) 地域社会は、歴史や環境などの積み重ねを経て、現在の景観や生活文化を有している。また、これらの多様な重なりは、地域によって大きく異なる。そこで、Type 別の路地における街路表象の潜在的な価値体系や関係性を明らかにする。

街路表象の階層構造) で明らかにされたそれぞれの役割を、具体的街路表象を示し、その階層構造を明らかにする。

3. 路地の形状と特性

路地を特性と形状により以下に分類する (Fig. 2)

A type : 袋小路の路地で、路地全体が見通せる I 型の形状。

B type : 袋小路の路地で、路地全体が見通せない T 型・L 型の形状。

C type : 他の街路へ通り抜けの可能な抜小路の路地で、I 型・T 型・L 型・コ型の形状。

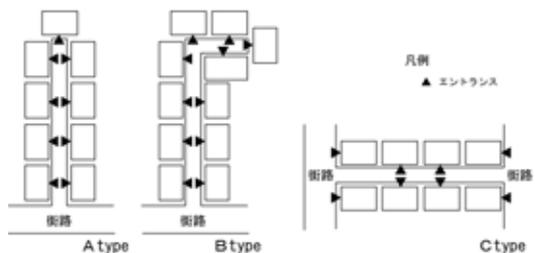


Fig.2 路地の形状と住戸のアプローチ

4. 路地と街路表象の関係

4-1 街路表象の価値体系

これまで街路表象における役割・機能は、その性質や形状の関係により示されてきた。しかし、それでは街路表象の潜在的な空間構造までを明らかにすることはできないと考える。そこで本論文では、価値を「自然的、絶対的特性によって定義される個々の要素が寄り集まって全体を作るのではなく、全体との関連と、他の要素との相互関係の中ではじめて個の価値が生じる」ものとして位置づける。Type 別の街路表象を Tab.2 に示す。

Tab.2 Type 別街路表象

A type	ぼき 傘入れ	ちり 消火器	バツ 消火ツツ	土箱 窓機	筆津バ シロ	自庫 ホース	植栽
B type	ベチ 台車	ぼき 筆津バ	ちり 水道	バツ 植栽	土箱 石	傘 ベトボリ	方 傘入れ 木板 鉄板
C type	ぼき 植木	ちり 看板	洗濯機 カーユン	バツ ベトボリ	筆津バ 道箱	自庫 物置	地蔵 消火器

4-2 街路表象の相関関係

前項より分類された全 31 種類の街路表象に対し、相関係数をもとに Type 別の各街路表象の相関係数を求める。(Tab.3)

Tab.3 Type 別の街路表象における相関係数

A type	ほうき	ちりとり	バケツ	自転車・バイク	植木	消火器	消火バケツ	室外機	ジョウロ	ホース
ほうき	1	0.2116	0.4442	0.5601	0.5219	0.2927	0.5341	0.1207	0.1050	0.0853
ちりとり	0.2116	1	0.3772	0.1826	0.3918	0.0481	0.1538	0.2736	0.3829	0.1823
バケツ	0.4442	0.3772	1	0.2111	0.3468	0.0077	0.4176	0.1310	0.4328	0.4006
自転車・バイク	0.5601	0.1826	0.2111	1	0.4414	0.3680	0.3618	0.1598	0.2715	0.2115
植木	0.5219	0.3918	0.3468	0.4414	1	0.0419	0.5201	0.0887	0.3833	0.1600
消火器	0.2927	0.0481	0.0077	0.3680	0.0419	1	0.2721	0.1749	0.0517	0.1794
消火バケツ	0.5341	0.1538	0.4176	0.3618	0.5201	0.2721	1	0.0216	0.2139	0.0049
室外機	0.1207	0.2736	0.1310	0.1598	0.0887	0.1749	0.0216	1	0.2040	0.3227
ジョウロ	0.1050	0.3829	0.4328	0.2715	0.3833	0.0517	0.2139	0.2040	1	0.2488
ホース	0.0853	0.1823	0.4006	0.2115	0.1600	0.1794	0.0049	0.3227	0.2488	1

B type	ベンチ	ほうき	ちりとり	バケツ	ゴミ箱	傘	自転車・バイク	植栽	消火器	消火バケツ	室外機
ベンチ	1	0.2349	0.2774	0.0745	0.2462	0.2785	0.2366	0.4196	0.3429	0.3422	0.1697
ほうき	0.2349	1	0.6385	0.2078	0.1041	0.0968	0.3486	0.1270	0.6635	0.3159	0.0786
ちりとり	0.2774	0.6385	1	0.6154	0.2048	0.2317	0.1292	0.1460	0.2853	0.1868	0.2219
バケツ	0.0745	0.2078	0.6154	1	0.2310	0.0788	0.1701	0.1500	0.0042	0.1070	0.2112
ゴミ箱	0.2462	0.1041	0.2048	0.2310	1	0.0686	0.4076	0.2600	0.2993	0.5789	0.5193
傘	0.2785	0.0968	0.2317	0.0788	0.0686	1	0.2088	0.1380	0.0330	0.2011	0.2093
自転車・バイク	0.2366	0.3486	0.1292	0.1701	0.4076	0.2088	1	0.4615	0.6067	0.3621	0.1705
植栽	0.4196	0.1270	0.1460	0.1500	0.2600	0.1380	0.4615	1	0.2500	0.2824	0.1260
消火器	0.3429	0.6635	0.2853	0.0042	0.2993	0.0330	0.6067	0.2500	1	0.5895	0.0159
消火バケツ	0.3422	0.3159	0.1868	0.1070	0.5789	0.2011	0.3621	0.2824	0.5895	1	0.2530
室外機	0.1697	0.0786	0.2219	0.2112	0.5193	0.2093	0.1705	0.1260	0.0159	0.2530	1

C type	ほうき	ちりとり	バケツ	自転車・バイク	自動車	植栽	カラーコーン	ペットボトル	物置	消火器	消火バケツ	台	室外機	ジョウロ	ホース
ほうき	1	0.8913	0.6804	0.0555	0.0297	0.4923	0.0346	0.3065	0.0346	0.6239	0.3462	0.4862	0.1264	0.6865	0.7131
ちりとり	0.8913	1	0.7974	0.1508	0.0371	0.5961	0.2286	0.2309	0.2286	0.7790	0.4341	0.7285	0.2864	0.7674	0.6361
バケツ	0.6804	0.7974	1	0.5619	0.1746	0.6738	0.3465	0.2085	0.2627	0.9410	0.5207	0.7483	0.2071	0.6214	0.5802
自転車・バイク	0.0555	0.1508	0.5619	1	0.2257	0.5395	0.0550	0.0565	0.1445	0.5955	0.5835	0.4004	0.2045	0.4005	0.4779
自動車	0.0297	0.0371	0.1746	0.2257	1	0.6887	0.4977	0.5311	0.8328	0.3842	0.6533	0.5122	0.5387	0.0528	0.2091
植栽	0.4923	0.5961	0.6738	0.5395	0.6887	1	0.4130	0.1004	0.7426	0.8065	0.8630	0.8140	0.5019	0.7164	0.7729
カラーコーン	0.0346	0.2286	0.3465	0.0550	0.4977	0.4130	1	0.3491	0.4054	0.3408	0.5423	0.5663	0.0161	0.1124	0.0556
ペットボトル	0.3065	0.2309	0.2085	0.0565	0.5311	0.1004	0.3491	1	0.1792	-0.1013	0.3659	0.1799	0.6073	0.2199	0.1972
物置	0.0346	0.2286	0.2627	0.1445	0.8328	0.7426	0.4054	0.1792	1	0.4771	0.4992	0.5663	0.5461	0.2669	0.2782
消火器	0.6239	0.7790	0.9410	0.5955	0.3842	0.8065	0.3408	0.1013	0.4771	1	0.6615	0.8273	0.3848	0.6261	0.5869
消火バケツ	0.3462	0.4341	0.5207	0.5835	0.6533	0.8630	0.5423	0.3659	0.4992	0.6615	1	0.7751	0.4101	0.5636	0.6369
台	0.4862	0.7285	0.7483	0.4004	0.5122	0.8140	0.5663	0.1799	0.5663	0.8273	0.7751	1	0.4990	0.6332	0.4825
室外機	0.1264	0.2864	0.2071	0.2045	0.5387	0.5019	0.0161	0.6073	0.5461	0.3848	0.4101	0.4990	1	0.2692	0.1984
ジョウロ	0.6865	0.7674	0.6214	0.4005	0.0528	0.7164	0.1124	0.2199	0.2669	0.6021	0.5636	0.6332	0.2692	1	0.8965
ホース	0.7131	0.6361	0.5802	0.4779	0.2091	0.7729	0.0556	0.1972	0.2782	0.5869	0.6369	0.4825	0.1984	0.8965	1

4-3 関係グラフ^{注1)}

関係網やネットワークといった、物と物との関係として表される諸現象を、物を点で表示し、関係ある物どうしを線で結ぶことにより、わかりやすく目に見える形として表せる表現形式としてグラフ理論^{注1)}がある。グラフ理論におけるグラフは、一般的に用いられる数量的関係を図示するためのアナロググラフとは異なる。ここで考えているグラフでは、点のアナログ的位置や線の長さ、傾きといったものは重要な意味を持たず、どの点とどの点と結ばれているかという結合関係が、本質的な問題となる。ここでは、Type 別の路地における街路表象の全関係グラフと前項より得られた相関係数を用いた関係グラフを示す (Fig.3)。

4-4 分析結果

Type 別の路地について、相関係数・関係グラフを用いて得た結果を以下に示す。

A type では、9本のつながりが見られ、「ほうき」と「バケツ」が共に最も多い4本のつながりを示した。また、「ほうき」「植栽」「消火バケツ」の3分類は、それぞれ 0.52~0.56 の相関が見られ、相互にその価値の決定に影響していると考えられる。B type では、10本のつながりが見られ、「消火器」に最も多い3本のつながりが示された。また、「ほうき」「自転車・バイク」「消火バケツ」との相関はそれぞれ、0.66・0.60・0.59 と高い相関が見られた。C type では、Type 別の街路表象数を考慮したうえで、最も多い60本のつながりが見られた。最も高い相関は「バケツ」と「消火器」の 0.94 であり、「植栽」が最も多くの13本のつながりを示した。

りが見られた。最も高い相関は「バケツ」と「消火器」の 0.94 であり、「植栽」が最も多くの13本のつながりを示した。

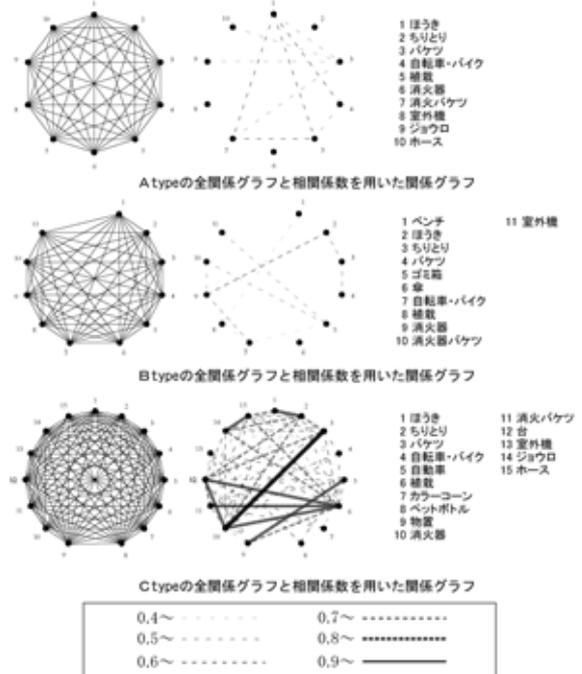


Fig.3 Type 別の関係グラフ

5. 街路表象の階層構造

前項で得られた Type 別の関係グラフをもとに、各 Type における各街路表象の価値を構造する階層構造を明らかにする。本項では、各 Type において最も多くのつながりを示した街路表象を対象に分析を行

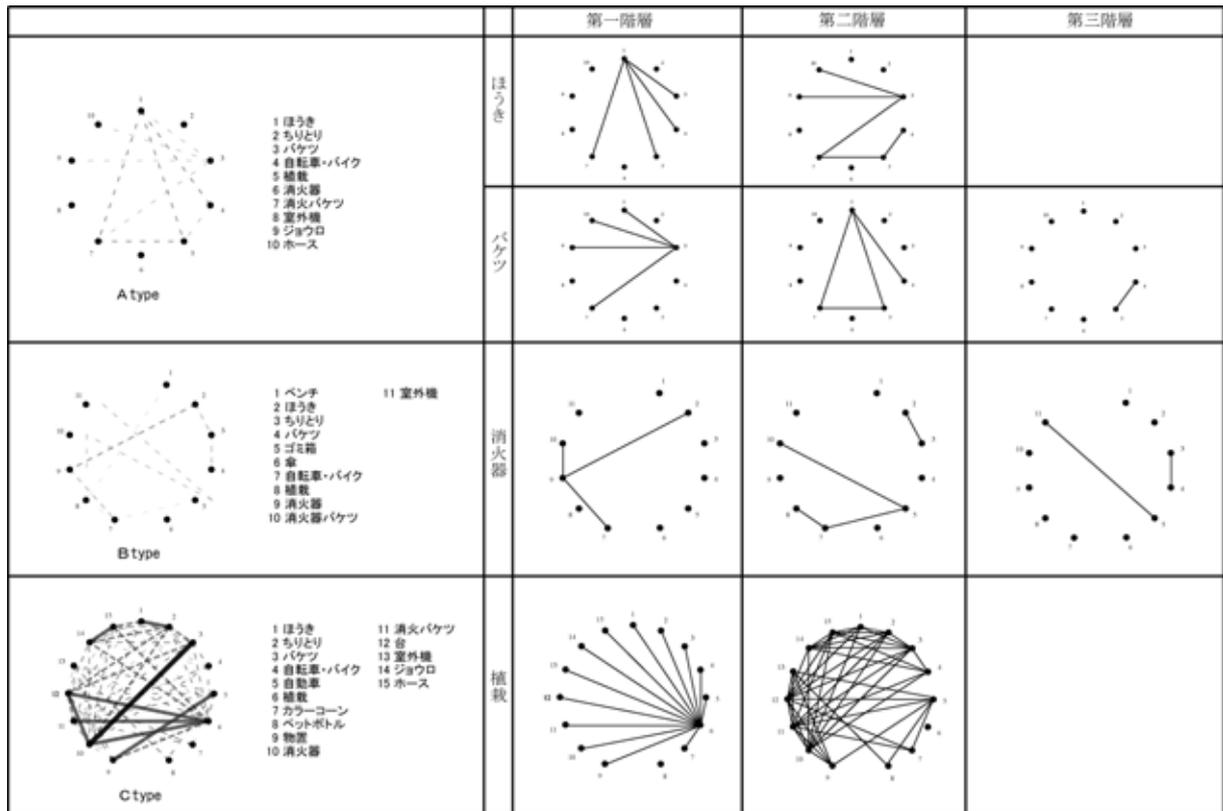


Fig.4 Type 別の階層構造

う。Type 別の階層構造の分析結果を Fig.4 に示す。

5-1 分析結果

A type では、同数のつながりを持つ「ほうき」と「バケツ」において異なる階層構造が示された。C type の「植栽」は、第一階層が12本のつながりで構成され、第二階層では、対応する本のつながりが見られた。このことより「植栽」が、直接的に他の街路表象の影響を受け易いことが考えられる。

6. まとめ及び今後の課題

本論文では研究対象地内に点在する路地について街路表象に着目することにより、路地空間の現状の把握をおこなった。その結果から得られた知見を以下にまとめる。

- 1) 各 Type の示す関係グラフは、Type 毎に異なるつながりを示した。このことから、本稿における価値の位置づけより、Type 毎に異なる街路表象の価値体系が形成されていると考えられる。
- 2) C type における関係グラフは、A type・B type に比べ、街路表象間のつながりが複雑に示されている。C type と A type・B type との差異は、抜小路が袋小路かによるものであり、このことから、C type の路地では居住者以外の住民に対して、潜在的つながりによ

て形成される閉鎖性が存在すると考える。

3) C type の植栽を構成する階層構造は、第一階層に多様なつながりを構成することで、階層構造としては低次なつながりを形成していることがわかる。

今後の課題として、本研究より得られた路地空間での隠れたつながりをより明らかにすると共に、異なる視点より新たなつながりを把握していくことが課題であると考えられる。

〔注釈〕

注1) グラフ理論は、ノード(節点・頂点)の集合とエッジ(枝・辺)の集合で構成されるグラフの性質について研究する学問で、1736年にオイラーによって提出されたものが起源とされる。

〔参考文献〕

- 1) 青木義次、湯浅義晴：開放路地空間での領域化としてのあふれ出し - 路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証 -
- 2) 青木義次、湯浅義晴：あふれ出しの社会心理学効果 - 路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証その2 -
- 3) 高橋鷹志：密集住宅地「住宅郡」における路地と隙間の役割に関する研究
- 4) 西沢健：ストリート・ファニチュア、鹿島出版会、1983
- 5) 栄久庵祥二：都市の道具、鹿島出版会、1986
- 6) 丸山圭三郎：ソシユールの思想、岩波書店、1981
- 7) 高岡英夫：スポーツと記号、恵雅堂出版 1986
- 8) 田村三郎：やさしいグラフ論、現代数学社、1988